

第4回枚方市中学校給食あり方懇話会(意見聴取にて開催)

第4回枚方市中学校給食あり方懇話会は、大阪府のまん延防止等重点措置が継続であったことから会議の開催を中止し、予定していた案件について、各委員へ個別に意見聴取を行いました。

1. 案件

- (1) 第3回会議のふり返りについて
- (2) 課題の抽出等について
- (3) 市民からの意見募集について
- (4) その他

2. 資料等

- (1) 第4回枚方市中学校給食あり方懇話会 意見提出票
- (2) 別添1「第3回枚方市中学校給食あり方懇話会における意見」

3. 意見聴取等

1. 第3回会議のふり返りについて

「第3回枚方市中学校給食あり方懇話会における意見」の確認(→修正なしで取りまとめ)

2. 課題の抽出等について

委員名	意見内容
今城委員	<p>学校教育法では、学校教育が果たすことに、「児童生徒が生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育てていくための基礎を培うこと」と示されています。また、近年の食を取り巻く様々な問題を受け、学習指導要領には食育の推進が位置づけられており、児童生徒が食に関する正しい知識を身につけ、自らの食生活を考え、望ましい食習慣を実践できるよう様々な場面で食育に取り組むことや、食習慣の乱れ等に起因する健康課題に適切に対応することが明記されており、学校教育活動全体として効果的な取り組みが求められています。枚方市の中学校では、過密なカリキュラムの中どのように工夫され、食育の推進が展開されているのか。</p> <p>食育を推進するにあたっては、家庭での食生活と切り離して考えることはできないと思います。それは、食の在り方や考え方は家庭での背景が大きいからです。日々どのような食生活を過ごしているのかを個々に調査することは色々な意味で厳しいと思いますが、全員給食ならば昼食に関してはその内容が把握できるとともにマネジメントもできます。給食の時間には効果的な食育を推進することも可能です。言い換えれば、給食は学校教育が果たすべき食育を計画的・継続的に推進することができるということです。また、前回ご提示いただいた資料の中にもありましたが、全国中学生栄養素摂取状況では、食事摂取基</p>

委員名	意見内容
今城委員	<p>準に適合していない項目がいくつかあり、特に生活習慣病につながる項目が目立っていました。</p> <p>さらに、給食のない日の栄養バランスが悪いという結果もありました。これは食生活の乱れが顕著に表れていると思います。これら全てが枚方市の中学生に当てはまるとは言えませんが、渚西中学校の小西先生の実態報告から考えてみると重なるところは多々あるのではないかと推察されます。現在、枚方市では、ほとんどの生徒が弁当持参の実情の中、成長期である生徒たちの一日三食のうちの昼食は大丈夫なのか非常に気になるところです。</p> <p>学校給食は、家庭での食事で摂取量が不足していると推測される栄養素を可能な範囲で給食により補うなどの工夫が行われています。安全で安心な栄養バランスの優れた魅力的な給食を継続的に全ての生徒に平等かつ安定的に提供することは重要であり、全ての生徒が丈夫な体をつくることは教育の根本だと思います。また、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして行うことにより、教育上の高い相乗効果をもたらすことも期待できます。今、枚方市としては中学校全員給食を前向きに検討する時期にきていると思います。健康上、教育上、なぜ全員給食を実施しないのか。逆に実施できない理由を明らかにすることも必要かもしれません。</p> <p>ただ、重要なことは、中学校の教育活動が円滑に進められるように、全員給食実施を想定した学校現場の状況やカリキュラムの問題などの課題を抽出し解決することが優先かもしれません。</p> <p>令和3年2月のアンケート調査では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中学校一斉給食に賛成する保護者(中学校)が多い。 ② 生徒、保護者(中学校)ともに給食は栄養バランスのよい食事であると認識している。 ③ 児童、保護者(小学校)は給食を概ね満足している。 ④ 児童、保護者(小学校)ともに給食は栄養バランスのよい食事であると認識している。 <p>以上の結果から考えられることは、中学校全員給食を開始しても児童生徒、保護者には大きな混乱は招かないと推察されます。生徒たちにおいては、弁当持参を希望する意見が多く見られましたが、給食は数学や国語等と同じように一つの教科として「食育を学ぶ時間」として捉えてはいかがでしょうか。例えば、数学が苦手だから教科から外してほしいと言う人はいないと思います。冒頭にも申しましたが、食育は学校教育で推進するように義務付けられている学習です。総合的に考えて給食の時間に行うことで直接的教育ができます。知識だけでは間接的であり行動の変容にはつながりにくく効果的な取り組みは期待できません。</p> <p>今後、枚方市の小中学校では全員給食が実施されるということを前提にカリキュラムの編成を行い、小学校、中学校が連携を図り、児童生徒の発達段階に</p>

委員名	意見内容
今城委員	<p>応じた系統的、継続的な食育が推進されるよう食育の指導全体計画の作成を行う必要があると考えます。</p> <p>〈提供方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自校・食缶方式 → 物理的、予算的に難しい。 ② 給食センター・食缶方式 → 全員給食の場合、現状は全員分が賅えない。 ③ 業者弁当給食 → ランチボックスの場合、現状では全員分が賅えない。残食が把握できない。 ④ 現在のランチボックス方式を改め、温かい給食での提供や量の調整に対応できる方式 →フードロスの削減につながる <p>対策案 ↓</p> <p>食缶方式</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新たな給食センターの設置をする。 ② 賅えない分を民間給食施設に委託する。 ③ 一つの方式に拘らず、学校施設の状況や地域特性なども踏まえたうえで、複数の方式を組み合わせる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実現可能性や費用対効果、効率性等（食育推進を含む） ② 中学校における学校生活への影響 <p>質問として、中学校給食において、就学援助のような給食費の援助はあるのでしょうか。現在、援助は行われているのでしょうか。</p>
中山委員	<p>「中学校のPTA給食委員について」も来年度の会長会への引継ぎ内容に入れておきます。選択制といっても19校全てに給食の配膳があるので、小学校同様の委員はいた方が良いのかとも思いました。</p>
田中委員	<p>検討事項や課題ではありませんが、市として、どうしていくのかの指針やそのための予算措置などがない中での検討だったと思われることが、未だに払拭できません。そのため、懇話会での意見を取りまとめて今後の中学校給食の方針案を作成されることに違和感があるというのが率直な思いです。現実問題として施設面などの課題が山積している状況でもあります。</p>

3. 市民等からの意見募集について

委員名	意見内容
今城委員	<p>中学校対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中学校全員給食実施の場合、学校現場の課題点 ② 教員対象に各担任が行った今年度の食育年間指導時間数 <p>小学校対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 5年生から6年生保護者対象に、中学校全員給食実施の賛否（予定給食費等を含む）、全員給食実施の場合に気になる点 ② 6年生児童対象に、中学校給食に期待（希望）すること。 <p>※給食の内容、提供方式は小学校の実施方法を継続する（アレルギー対応等含み）ということを前提に、アンケート調査を実施する。</p> <p>※小学校保護者に向けて、児童生徒の栄養素摂取状況における課題点を周知するとともに、中学校給食の意義、目的、期待される効果等を伝えた上でアンケート調査を実施する。</p>
中山委員	<p>過去の資料にもあるように、保護者・生徒の意見をアンケート調査しているので、市民の方々にもアンケート結果を見てもらった上で意見を聞き、その意見を、保護者、生徒に見てもらった方が、給食に対する関心を持たれるのではないかと思います。アンケートを実施して意見を聞くべきと思います。</p>
金子委員	<p>工場を作るのにどれくらいの金額と時間がかかるのか、今の給食の一食あたりの値段を見直してほしいなどないのか、なぜ、スタートが選択制ではないといけなかったのか、知りたいことがどこまで周知されているのか（を調査する）。</p>
山本委員	<p>意見募集は、生徒・児童は必要ないと思います。生徒・児童は嗜好の部分が大きく、給食の必要性や金銭的なものが客観的に判断できないのではないかと思います。実施するのであれば、保護者ですが、市民に対する意見募集を行うならば、なくても良いかと思います。（PTAの方も今回メンバーです）もし、実施することになれば、パブリックコメントと同時期が良いと思います。</p>